

## 愛知県みよし市 1人1台端末の利活用に係る計画

### 1 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現をめざす学びの姿

国は、G I G A スクール構想により、一人一台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させることを打ち出している。また、新学習指導要領では、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられており、ICT を活用した学習活動の充実を図ることが期待されている。

本市では、校内無線 LAN ネットワーク及び普通教室への大型提示装置の整備を進め、令和3年1月から一人一台タブレット端末の運用を開始し、全普通教室への大型提示装置の配備により、「いつでも、どの教科でも、全教員が」活用できる環境を整備してきた。1人1台端末の活用した授業については、子どもたちが「自ら判断し、行動する力」を身に付けさせることを目標に、ICT を使うことが目的にならないよう、子どもたちの学びの様子を見取り、バランスよく取り組むことを大切にしてきた。今後は、温かい前向きな学級集団づくりを土台にして、教師がこれまで積み重ねてきた「学び合い、高め合う」授業に、ICT の活用をかけあわせていくことで、子どもたちの学びを「主体的・対話的で深い学び」にしていくことを目指していきたい。

今後の課題として、ICT に慣れる段階から、授業において、クラウド機能を活用しながら、子ども同士つながる効果的な活用について研究し、活用事例等を蓄積・共有していくことや、子どもたちが ICT を適切且つ安全に使いこなす、デジタル・シティズンシップ教育の充実を図っていくことを目指します。

### タブレットをどのように活用していくか

これまで取り組んできた授業  
(前向きな学習集団づくり)



ICT (教師も子どもも)  
・効率・効果を創出

各校で積み重ねてきたこれまでの授業づくりに ICT 活用をかけあわせていく！

**主体的・対話的で深い学び**

子どもたちの学びの様子を見取り、バランスよく取り組むことが大切です！

仲間とともに学び合う  
**協働的な学び**



**【協働的な学びの例】**

- ミライシード（オクリンク）
  - ・自分の考えを視覚化して整理する。
  - ・自分の考えを伝える。
- ミライシード（ムーブノート）
  - ・意見を比較検討する。
  - ・作品を協働制作する。
- 新ミライシード（オクリンクプラス）
  - ・クラウドでの共同編集を行う。
  - ・学びの過程を可視化する。（振り返り）

一人で学びに向かう  
**個別最適な学び**



**【個別最適な学びの例】**

- ミライシード  
（ドリルパーク/**新**テストパーク）
  - ・自分のペースで学習する。
  - ・個に応じた問題に取り組む。
- アプリを活用した、こども一人一人に合わせた学びの保障
- 教科書の二次元コードを活用
- 写真撮影機能を使ってレポートや作品作りに活用
- NHK for school などの動画を視聴

## 2 GIGA 第1期の総括

GIGA 第1期では、令和2年度に国のGIGAスクール構想を踏まえ、1人1台端末としてiPadを整備してきた。また、令和3年度から、「いつでも、どこでも」という理念から、全小中学校で、3か月に1回程度、段階的に家庭への持ち帰りを実施し、オフラインでも取り組める学習支援ソフトを導入するなどコロナ等で臨時休校や学級閉鎖等になった場合でも、学びを止めない環境整備に努めてきた。

令和4年8月には、教職員においても1人1台端末を配備し、校務用でもICTを活用することで、ICTの効果を実感するとともに、教職員同士でも学び合いながら、授業においても使ってみようという前向きな姿勢となるよう取り組んできた。

令和2年度から5年度の4年間は、みよし市教育研究員の制度として、みよしの目指す「学び合い、学びを深める授業づくり」におけるICT活用推進を目標に、授業実践事例の蓄積と各校研修の核として活動する教員の育成を図ってきた。令和5年度末には、ICTの使用率の学校間格差を是正するために、3年間積み上げてきたICT活用事例を整理し、9年間を通して育成する情報活用能力（図1参照）とデジタル・シティズンシップ教育の視点を踏まえたカリキュラムと各学年の年間指導計画を作成してきた。ICT支援員と連携し、授業提案をしていただきながら教育研究員の実践を市内全校の教職員にも周知を行っているところである。

みよし市版 情報活用能力育成の段階表

項目	概要	学習内容	低学年		中学年		高学年		中1年	中2年	中3年
			1年	2年	3年	4年	5年	6年			
基礎的な知識・技能	【観察実験】	撮影、編集	写真の撮影 スマートフォン カメラの活用	動画撮影 写真 動画編集							
	【情報収集】	図書資料 インターネット	QRコード オクリンク	動画撮影 写真 動画編集							
	【分かりやすく伝える】	新聞 リーフレット オクリンク	オクリンク提出BOX	写真・動画 オクリンク提出BOX							
思考・判断・表現力等	【情報の整理・分析】	問題発見 問題解決 情報の吟味									
	【分かりやすくまとめる】	メディアの特性									
	【振り返り】	省察の技能									
プログラミング教育	【プログラミング的思考】	分解 順次 分岐 反復									
	【プログラムの作成】	試行錯誤 情報社会									
	【振り返り】	省察の技能									
情報モラル(デジタルシティズンシップ)	安全かつ適切に情報手段を使って、よりよい情報社会を創ろうとする知識と態度	情報と健康 セキュリティ 著作権 肖像権 ルール マナー									
	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと	デジタルの足あと
	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス	メディアバランス

図1 みよし市版 情報活用能力育成の段階表

また、令和6年度は、授業支援ソフトウェアの新機能を早くから使用し、機能改善要望ができるように、パイロット校として6校が積極的にICTを活用した授業実践を行った。これまで以上に、仲間の考えをリアルタイムに共有しながら、相互評価をし合ったり、共同編集を行ったりして、本市が目指す「学び合い、学びを深める授業づくり」にICTが効果的にかき合えるような実践が進みつつある。

これらの取組の結果、本市は、令和6年度に実施した全国学力・学習状況調査における児童生徒の質問紙調査にある「授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問において、全国や県平均と比べて高い数値を示すなど、ICT使った授業は定着しつつある。(図2参照)

<小学校調査結果>

質問番号	質問事項											
(27)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	29.3	38.8	19.8	8.1	3.8						0.0	0.2
愛知県(公立)	23.9	32.7	26.6	12.0	4.8						0.0	0.1
全国(公立)	25.3	34.2	26.0	10.3	4.2						0.0	0.1

1.ほぼ毎日   
 2.週3回以上   
 3.週1回以上   
 4.月1回以上   
 5.月1回未満   
 その他   
 無回答

< 中学校調査結果 >

質問番号	質問事項											
(27)	1. 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴教育委員会	33.3	37.2	20.3	5.6	3.0						0.0	0.7
愛知県(公立)	29.8	32.2	24.8	9.2	3.6						0.0	0.4
全国(公立)	31.0	33.4	24.6	7.8	2.8						0.0	0.3



図2 全国学力・学習状況調査の質問紙結果

### 3 1人1台端末の利活用方策

#### 1 教職員のスキルアップ

今回の端末の整備・更新により、GIGA第1期の1人1台端末を維持し、クラウド環境をさらに活用できるようにしていく。令和6年度の夏季休業期間には、文部科学省初等中等教育局GIGASTuDX推進チーム担当者を招聘し、「なぜICTが必要なのか」「授業での効果的な活用」というテーマで、キャリアステージ別の研修会を実施した。この研修会では、ICTの効果的な授業イメージをもつことを目的に、実際にクラウド環境を使った共同編集やチャット機能を体験した。この体験をもとに、9月からの授業でMSアカウントを活用した共同編集を取り入れて、授業を行ったという教職員もいる。このような研修会も随時行うことで、個別最適な学び・協働的な学びにつながる授業実践につなげていくとともに、教職員同士が学び合う機会を創出していくことで、学校間、教師間格差を是正し、授業での活用率を高めていく。

#### 2 小学校PC室をフューチャークラスルームとして活用

GIGA第1期の1人1台端末の導入により、小学校のPC室の活用が課題となっていた。そこで、小学校のCP室を先進的に有効活用している埼玉県鴻巣市を視察し、本市もフューチャークラスルーム(図3)として整備する計画をすすめることにした。広い空間で1人1台端末を活用しながら、自由にペアやグループや話し合い、創造的な発想で主体的に課題解決に向かい、豊かに表現するこどもたちを育成することを目的に、まずは、令和6年度、モデル校として中部小学校のCP室をフューチャークラスルームとして整備する。2月には、市内教職員が学ぶ機会として、フューチャークラスルームでの提案授業を実践し、本市が目指す「学び合い、高め合う」授業に、効果的にICTをかけあわせた「主体的・対話的で深い学び」に向かう授業づくりの充実に努めていく。

学校教育情報化推進委員会専門部会で意見を集約した結果  
資料1「コンピュータ教室の在り方と整備の方向性について」

中部小学校のコンピュータ教室

旧	新(重要度昇格)
デスクトップパソコン	○禁止→一人一台タブレット
ICTカーブ	○現状維持
学習用サーバ	○現状維持
	○大型スクリーン・ホワイトボード
	○大型スクリーン用無線投影機
複合機	○現状維持(検討)
	○授業配信用カメラ・マイク
事務椅子	▲スツール
フローリング	▲カーペット
場所: コンピュータ教室	場所: くすのき

大型スクリーン兼ホワイトボード、プロジェクター



図3 アクティブラーニング教室のイメージ

### 3 学びの保障

1人1台端末とクラウドを活用した学びの保障についても、取組をさらに推進していく。希望する不登校児童生徒への支援については、クラウド環境を使った教材の提供やオンライン授業が少しずつ進んでいる。

また、今後は1人1台端末を活用し、悩みを相談できる窓口開設を検討していく。児童生徒の心の変化を見逃さず、早期発見し、学習に集中できる環境づくりを進めていく。